神戸大学×阪神高速 共同研究

2024年度共同研究の成果

○テーマ：

神戸港にかかる海上長大橋の社会的意味を考える

大阪湾岸道路西伸部・駒栄付近のトンネル工事現場見学やインフラの整備効果に関するガイダンス、神戸大学教員による「インフラの社会的意味について」の講義の後、グループに分かれワークショップ形式で海上長大橋の社会的意味について議論を行いました。

各グループから様々な観点に着目した社会的意味が提案されました

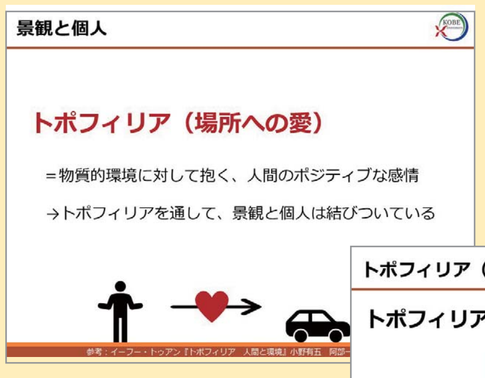
景観に着目した社会的意味

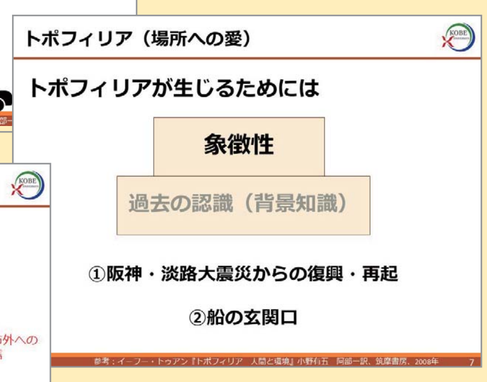
海上長大橋が持つ象徴性が、景観を誇りに思う市民の気持ちや行動（トポフィリア）に変化を生じさせ、ひいては都市をより良くしようとする都市への愛着・誇り（シビックプライド）が醸成されるのかを検討。

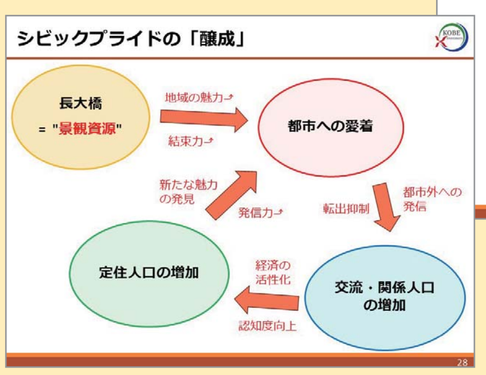
海上長大橋が持つ２つの象徴性によりトポフィリアが生じる
①阪神・淡路大震災からの復興・再起
②コンテナ船の玄関口

↓

トポフィリアからシビックプライドが生じることで
新たな人の流れやその都市の活力向上につながる







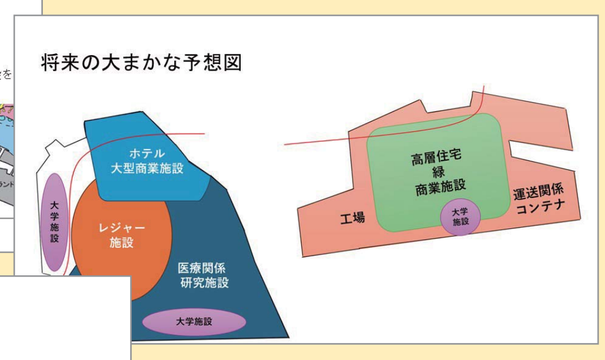
2つの島に着目した社会的意味

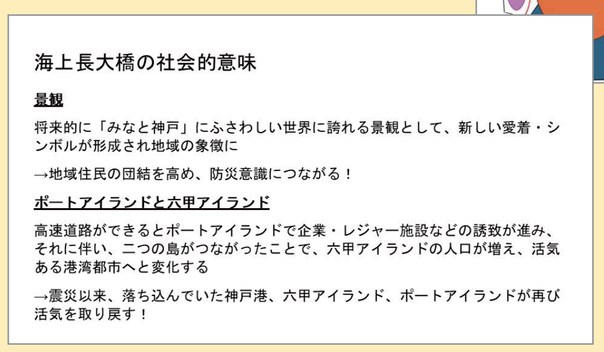
六甲アイランドとポートアイランドの「2つの人工島」に着目し、海上長大橋の建設によって社会的意味がどのように変化するのかを検討。

２つの島がつながることで、再び活気ある港湾都市へ
ポートアイランド：企業・レジャー施設などの誘致
六甲アイランド：人口増加

↓

「みなと神戸」にふさわしい新たなシンボルが形成され、地域の象徴に
地域住民の団結を高め、防災意識の向上に寄与

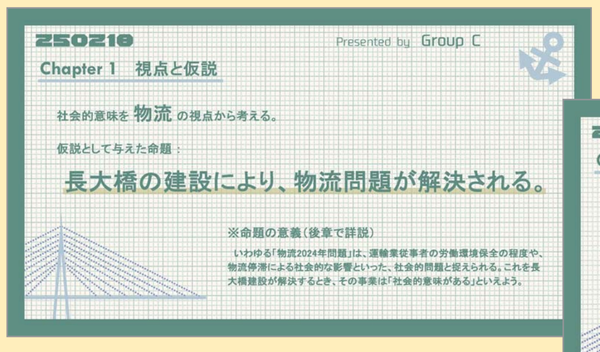
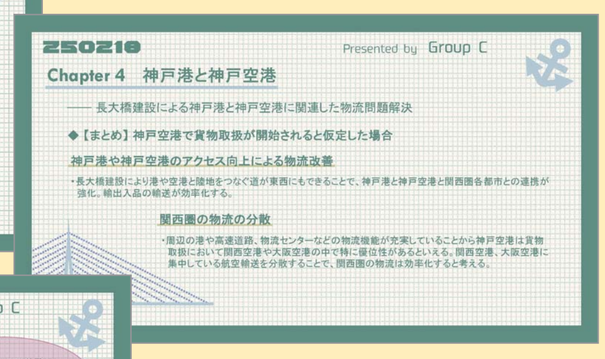
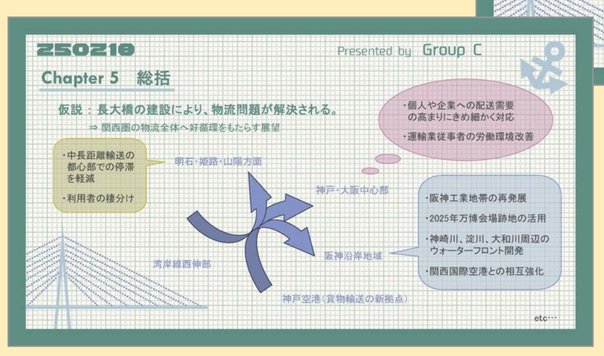




物流に着目した社会的意味

「海上長大橋の建設により、物流の課題がどのように変化するのか」に着目し、物流面における社会的意味を検討。

海上長大橋の建設により神戸港と神戸空港に関連する物流問題が解決
阪神高速を軸とした阪神間の物流全体の改善

↓

阪神高速を軸としたアクセス性向上による物流の円滑化
阪神工業地帯の再発展、神戸港や神戸空港の国際化・
取扱い規模拡大等に貢献し関西圏の物流全体へ好循環をもたらす